

<本戦初日(11月11日)レポート>



本日の結果（本戦）は以下の通りです。

Matthew EBDEN (AUS) [1] ○6-0/3-6/6-2● Mirza BASIC (BIH)

Jimmy WANG (TPE) ○6-4/3-1.ret ● Yuichi SUGITA (JPN) [7]

Ti CHEN (TPE)/Enrique LOPEZ-PEREZ (ESP)

○6-1/7-5●

Takashi YANO (JPN)/ Koki TAKADA (JPN)

Frank MOSER (GER) /Matt REID (AUS) [3]

●3-6/2-6○

Chase BUCHANAN (USA)/ Blaz ROLA (SLO)

本日より慶應チャレンジャー本戦がスタート。

第1シードのマチュウ・エブデン（オーストラリア）が昨年準優勝のミルザ・バシック（ボスニア・ヘルツェゴビナ）をファイナルセットの末退けて2回戦に進出した。

世界ランク94位のエブデンは南アフリカ出身のオーストラリア人で25歳。夫人を連れての来日となり、来年1月に自国開催される全豪オープンで飛躍するための準備として、2013年最後の試合を慶應チャレンジャーに選んだ。

『テニス選手になっていなかったら弁護士を目指していた。』と話すエブデンは、スライスショットやネットプレーを織り交ぜた頭脳的なプレーが持ち味。『オーストラリア人は人生にイージーゴーイングだからアスリートとして成功するのが難しいが、自分は南アフリカ出身で目標も明確だったから世界トップ100入りを果たせた。』

島国のハンディを背負うアジアオセアニアから世界トップに仲間入りする選手が増えることを信じている。そのためにはメンタルの充実が不可欠だね。』と自信をのぞかせている。

第1シードエブデンは、日本代表の添田豪、天皇杯全日本テニス選手権を制したばかりの伊藤竜馬、錦織圭2世の呼び声が高い西岡良仁、スペイン育ちの期待の若手ダニエル太郎などの挑戦をどのように跳ね返すか、非常に楽しみである。



トーナメントディレクター坂井利彰